

島根県邑智郡

瑞穂町内遺跡分布図V

— 布施・八色石地区 —

1992年

島根県邑智郡瑞穂町教育委員会

序 文

瑞穂町内には数多くの遺跡、埋蔵文化財があるといわれておりますが、これらを証左する資料等も乏しく、又、調査、発掘もごく一部限られたものしか手をつけられておりません。

近年、地域活性化のかけ声のもとに種々の開発が推進される中で、これら遺跡、埋蔵文化財の保護と活用を図ると共に、その位置や範囲を確認記録して適正な管理をするため、年次計画に基く分布調査を実施して参りました。

このたび、平成3年度事業により調査いたしました布施・八色石地区についてその結果をまとめましたので、今後参考資料として各方面にご活用いただければ幸いに存じます。

この調査に当たってご指導をいただいた鳥根県教育委員会文化課、広島大学文学部考古学研究室、並びに調査員、協力者関係各位に対し深く感謝申し上げる次第であります。

平成4年3月25日

瑞穂町教育委員会

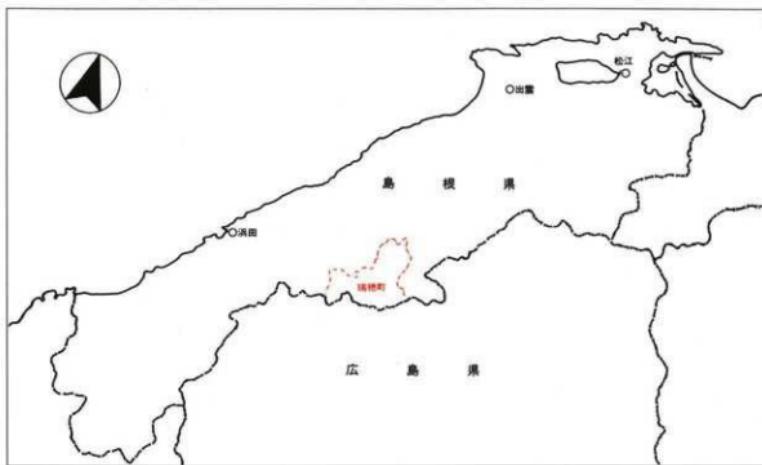
教育長 澤田 隆之

例　　言

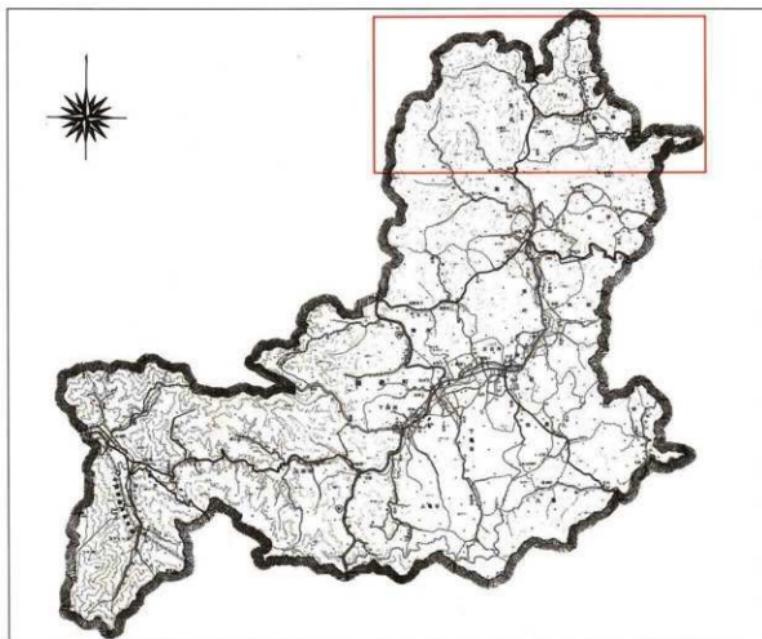
1. 本書は、平成3年度において国および県の補助を受けて瑞穂町が実施した瑞穂町布施・八色石地区の遺跡分布調査の報告書である。
2. 本年度の遺跡分布調査は布施・八色石地区を対象として実施した。田所地区・出羽地区・高原地区・市木地区については昭和59年度・昭和63年度・平成元年度・平成2年度に遺跡分布調査を実施しており、それぞれ報告書を発行している。本年度の調査をもって、町内全地区の遺跡分布調査を終了する予定である。
3. 本年度調査した遺跡の台帳は、田所地区・出羽地区・高原地区・市木地区の台帳と共に瑞穂町教育委員会で保管している。
4. 遺跡分布調査中に採集した遺物などは、瑞穂町郷土館に保管している。
5. 調査の事業主体および体制はつぎのとおりである。

事業主体	瑞穂町(瑞穂町教育委員会)		
事務局	瑞穂町教育委員会教育次長	山本忠徳	
	瑞穂町教育委員会次長補佐	星野暢子	
	瑞穂町教育委員会文化財係長	森岡弘典	
	瑞穂町教育委員会主事	藤田睦弘	
調査指導	広島大学文学部助教授 島根県教育委員会文化課 文化財保護主事 島根県教育委員会文化課 埋蔵文化財第3係長	河瀬正利 内田律夫 松本岩雄	
調査員	島根県文化財保護指導委員	吉川正	
調査補助員	瑞穂町文化研究会会長 瑞穂町文化研究会事務局長	三上憲昭 藤田担当	
調査協力者	瑞穂町文化研究会会員		
	洲浜信夫 森岡弘典 能美恭志 服部寿雄 日高学	日高久志 日高輝和 田中庸三 古川康正 藤田睦弘	三上福三 高川敬司 和田保人 小笠原義宣
	瑞穂町文化財愛護協会布施支部		

6. 調査にあたっては、土地所有者をはじめ、地元の関係者、瑞穂町文化財保護審議会委員の方々にご指導、ご協力をいただいた。
7. 本書の編集は、調査員、調査補助員、調査協力者の協力による。



瑞穂町位置図



遺跡分布調査区域図

瑞穂町内遺跡地名表（布施・八色石地区）

地図番号	種別	遺跡名	所在地	現況	遺跡の概要	遺物その他
1	鉢	跡 大ケヤキ3号鉢跡	大字八色石	山 林	野 鉢	
2	鉢	跡 ナメラ谷2号鉢跡	大字八色石	山 林	高殿鉢か	
3	鉢	跡 大ケヤキ1号鉢跡	大字八色石	山 林	高殿鉢	金池や坂町、小金町と思われる遺構が良好に残る
4	鉢	跡 ナメラ谷1号鉢跡	大字八色石	山 林	高殿鉢	本床部分良好に遺存
5	鉢	跡 大ケヤキ2号鉢跡	大字八色石	山 林	野 鉢	
6	鉢	跡 鎌治屋2号鉢跡	大字八色石	山 林	高殿鉢	本床部分良好に遺存
7	鉢	跡 鎌治屋1号鉢跡	大字八色石	山 林	野 鉢	
8	大鐵冶屋跡	鐵冶屋大鐵冶屋跡	大字八色石	山 林		鐵冶津少量
9	鉢	跡 上市鉢路	大字八色石上市	山 林	高殿鉢か？	
10	鉢	跡 煙ヶ迫右谷鉢跡	大字八色石	山 林		炭窯を構築する際本床部は破壊
11	鉢	跡 煙ヶ迫左谷鉢跡	大字八色石煙ヶ迫	山 林	高殿鉢	近世～近代？
12	城	跡 銭宝城跡	大字八色石	山 林	三段の削平地有り	南北朝～戦国時代
13	鉢	跡 八色石銭宝谷鉢跡	大字八色石	山 林	高殿鉢	
14	寺院跡	西光寺跡	大字八色石	山 林		
15	経塚	八色石経塚	大字八色石	雑 地	2.4m×2.4mの方形石積	
16	鐵冶屋跡	古瀬屋セド鐵冶屋跡	大字八色石	山 林		野鐵冶跡
17	鉢	跡 陰居山鉢跡	大字八色石	山 林		
18	鉢	跡 火宝山鉢跡	大字八色石	山 林		
19	古 墳	妙見古墳	大字八色石	田	圓場整備で消滅	中期須恵器
20	散布地	天羽遺跡	大字八色石	山 林		土師器、須恵器
21	鉢	跡 伊矢谷9号鉢跡	大字布施伊矢谷	山 林	野 鉢	鐵滓少量
22	鉢	跡 伊矢谷8号鉢跡	大字布施伊矢谷	山 林	野 鉢	鐵滓少量
23	鉢	跡 オオゾウ谷鉢跡	大字布施	山 林	高殿鉢	近世～近代
24	鉢	跡 伊矢谷7号鉢跡	大字布施伊矢谷	山 林	高殿鉢	近世～近代
25	鉢	跡 伊矢谷6号鉢跡	大字布施伊矢谷	山 林		中世か？
26	鉢	跡 伊矢谷5号鉢跡	大字布施伊矢谷	山 林		小規模な鉢か？
27	鉢	跡 伊矢谷4号鉢跡	大字布施伊矢谷	山 林	野鉢か？	
28	鉢	跡 伊矢谷3号鉢跡	大字布施伊矢谷	山 林	高殿鉢	近世～近代
29	鉢	跡 伊矢谷2号鉢跡	大字布施伊矢谷	山 林	野 鉢	古代～中世
30	鉢	跡 伊矢谷1号鉢跡	大字布施伊矢谷	山 林	野 鉢	中世か？

地図番号	種別	遺跡名	所在地	現況	遺跡の概要	遺物その他
31	鉱跡	畠1号鉱跡	大字布施畠	山林	高殿鉱	近世末～近代
32	鉱跡	畠ヶ谷1号鉱跡	大字布施畠	山林	野鉱	中世
33	鉱跡	畠ヶ谷2号鉱跡	大字布施畠	山林	高殿鉱	近世～近代初頭
34	大鍛冶屋跡	畠ヶ谷大鍛冶屋跡	大字布施畠	山林		近世～近代初頭
35	鉱跡	畠ヶ谷4号鉱跡	大字布施畠	山林	野鉱か？	鉄滓多量
36	鉱跡	畠ヶ谷3号鉱跡	大字布施畠	山林	野鉱	中世～近世
37	鉱跡	中ノ谷1号鉱跡	大字布施畠	山林	野鉱か？	炭窯により一部損壊
38	鉱跡	中ノ谷2号鉱跡	大字布施畠	山林	野鉱か？	中世～近世
39	鉱跡	中ノ谷3号鉱跡	大字布施畠	山林	高殿鉱か？	近世初頭～中頃か？
40	鉱跡	畠2号鉱跡	大字布施畠	山林	高殿鉱か？	道路改良により一部損壊
41	古墓	畠古墓	大字布施畠	山林	1.5m×1.5m	積石塚
42	鉱跡	日下谷1号鉱跡	大字布施畠	山林	高殿鉱	近代初頭か？
43	鉱跡	日下谷2号鉱跡	大字布施畠	山林	高殿鉱	近代初頭か？
44	鉱跡	日下谷3号鉱跡	大字布施畠	山林	高殿鉱	近代初頭か？
45	鉱跡	板橋谷鉱跡	大字布施畠	山林	野鉱	鉄滓少量
46	古墓	小丸子古墓	大字布施	山林	2.0m×1.0m	山伏の墓伝承あり
47	寺院跡	西善寺跡	大字布施	田		園場整備で消滅
48	鉱跡	山根鉱跡	大字布施	山林(竹林)		金屋子神の祠あり
49	神社跡	田中山八幡宮跡	大字布施	布施公民館 宅地道路		道跡、宅地化で消滅
50	神社跡	八幡宮跡	大字布施	県道山林		鉄穴流で大部分消滅
51	大鍛冶屋跡	長ツミ大鍛冶跡	大字布施	山林		近世か？
52	大鍛冶屋跡	森田大鍛冶跡	大字布施	水田・畠		水田化で大部分破壊
53	散布地	竹之中遺跡	大字布施	宅地・畠 水田・町道		
54	製鉄遺跡	同製鉄遺跡	大字布施	雜種地		大鍛冶屋跡か？
55	鉱跡	鉱ヶ原鉱跡	大字布施	雜種地		
56	散布地	同ノ空遺跡	大字布施	山林		古墳時代～平安時代
57	瓦窯跡	小ヶ谷窯跡	大字布施	畠山林	登り窯	明治～大正
58	鍛冶屋跡	鍛冶屋野鍛冶跡	大字布施	山林		鍛冶滓少量
59	古墓	鍛冶屋古墓	大字布施	山林	3.2m×3.6m	方形積石塚
60	古墳	大原峰古墳	大字布施	山林	円墳	古墳時代後期

布施·八色石(1:25,000)



●集落跡・散布地、その他 ▲鉄跡 ■古墳・横穴 凸城跡 丹神社跡 丹寺院跡

分布調査を終えて

島根県文化財保護指導委員 吉川 正

瑞穂町教育委員会は、国および県の補助を受け、これまで田所地区（昭和59年度）出羽地区（昭和63年度）高原地区（平成元年度）市木地区（平成2年度）の遺跡分布調査を実施し、その成果として瑞穂町遺跡分布図I～IVを発刊してきた。今年度は、布施・八色石地区について遺跡分布調査を実施し、これをもって町内の遺跡分布調査を終了することとなった。今回、瑞穂町遺跡分布図Vを発刊するに当り、これまでの遺跡分布調査を省み、また今後の課題等について私見を示しておくこととしたい。

今回の遺跡分布調査以前に知られていた瑞穂町内の遺跡数は315ヶ所であって、当時から県内でも有数の遺跡密集地域として知られていたのであるが、今回の遺跡分布調査により新たに234ヶ所の遺跡が発見され、549ヶ所の遺跡を分布図に載せることができた。この成果は今回の分布調査の主体として働いた瑞穂文化研究会会員の努力によるものといえよう。

さて、今回の遺跡分布調査に当って最も力を注いだのは、製鉄関連遺跡についてである。中国山地一帯に広く分布する良質の真砂砂鉄（山砂鉄）を原料とする鉈製鉄は、中国山地全域で行われていたが、その中でも瑞穂町を中心とした邑智郡南部地域で生産された鋼は「出羽鋼」と呼ばれ、兵庫県千種鋼と共に最高の品質のものとして知られており、鉈製鉄はこの地域の中世・近世の経済を支えた主要な産業であった。古代から現代に至る長い歴史の中で、この地域の地名を冠して呼ばれる産物はこの「出羽鋼」のみである。こうした点から、製鉄関連遺跡がこの地域の歴史を考える上で最も重要な遺跡であると考えたからである。

分布調査の結果、297ヶ所の製鉄関連遺跡を確認することができた。この内近世～近代の大規模な鉈製鉄遺跡である高殿鉄跡は約120ヶ所であり、半数以上はそれ以前の野鉈と呼ばれる小規模な鉈跡である。近年の瑞穂町内での開発に伴う発掘調査例から、この地域では古墳時代後期（6世紀後半）にはすでに小規模な製鉄が開始され、古代末頃には比較的大型の鉈床構造を持つ製鉄遺跡の存在が確認されているが、今回確認した小規模な製鉄遺跡の多くは、古代末～中世のものであろうと思われ、この時期からこの地方での製鉄が盛んに行われるようになったものと考えられる。近世における「出羽鋼」の生産はこうした古代からの長い間の技術の蓄積がもたらしたものといえよう。

ところで、今回の調査により297ヶ所もの製鉄遺跡を分布図に載せることができた

が、これはおそらく単一の市町村としては全国で最も数の多いものであろうと考えております。大きな成果であるといえよう。しかし広大な瑞穂町の山林面積の中で、今回踏査することができたのはほんの一部であり、未踏査の面積の方が圧倒的に多い。したがって、今回確認した数以上の未発見の製鉄関連遺跡が分布しているものと予想することができる。今後に残された課題である。

出羽地区では、久喜・大林・岩屋の鉱山（銀山）関係の遺跡分布調査に努めた。その結果、当初の予想をはるかに上回る約110ヶ所の間歩（試掘坑を含む）を確認することができた。またこの地域では寺院跡の調査も精力的に行い多くの遺跡を確認した。その寺歴をみると、天文年間頃（1532～1554）この地に建立され、寛文～慶安年間（1620～1652）に他の地区に移転したものが多いことが判明した。このことから久喜・大林の鉱山（銀山）の最初の盛期がこの間であったことが推定できた。

今回の分布調査を終えて残された課題も多い。時間的な制約もあって未踏査のまま残された地域も多い。また石塔類についてはほとんど未調査のままである。さらには技術的未熟さから簡単な図面さえ書くことのできなかつた遺跡もみられる。しかし一応の責任は果せたものと調査に携わった者は自負している。

遺跡分布調査の成果として発刊した瑞穂町遺跡分布図I～V及び瑞穂町教育委員会に保管されている遺跡台帳が、埋蔵文化財の保護と活用・開発との調整に充分に活かされることを願っている。



遺 跡 分 布 調 査 風 景



布施地区遠景



八色石地区遠景

平成4年3月25日

島根県邑智郡
瑞穂町内遺跡分布図 V
——布施・八色石地区——

編集・発行 島根県邑智郡瑞穂町教育委員会
印 刷 柏村印刷株式会社